

府立大冠高校 甲子園まであと一步 公立高校19年ぶりの決勝進出

全国高校野球選手権大阪大会で公立高校として19年ぶりに決勝進出を果たした府立大冠高校(高槻市)。一昨年のベスト4に続き、着実に躍進を続ける原動力について同校野球部の東山宏司監督に話を聞いた。



練習中は誰よりもうるさく、試合中は静かだという監督。「高槻生まれの高槻育ちなので、高槻の公立高校を甲子園に、という思いが強いんです」

練習メニューの改革で 甲子園も射程圏内に

セブンバツ優勝校の大阪桐蔭に10-8と迫った激戦を振り返り、「決勝の舞台には、私が選手たちに連れていってもらった。彼らを甲子園に連れていくための力量が私に不足していた」と東山監督は心残りを見せる。選手たちのやりきった爽やかな笑顔を見て、逆に涙してしまったという。

スポーツ推薦制度のない大阪の公立高校では、私学に比べると選手層・設備環境・練習時間などに限りがある。以前は守備やピッチャーの強化を中心に、ロースコアで競り勝つ野球をしていたが、どうしてもベスト8止まりだったそう。同校への赴任は20年前だが、「2011年に教諭から指導教諭として



取材当日、四国の強豪、愛媛県立今治工業高校との練習試合が行われていた。

校内での立場がかわり、リスタートを切れたことが野球部監督としての転機にもなった」と話す。腹を据え、チームを守備型から打撃中心型に切り替えたのだ。練習の7~8割を打撃練習にした。素振り中心のトレーニングは地味でつらい。そんな中、強豪校との練習試合の勝率が次第に上がり、ベスト8の壁を破り、一昨年は大阪大会ベスト4に進出するなど、着実に成果が上がり、全員のモチベーションを支えた。また、担任や保健体育の授業で得た経験から、マンツーマン指導にも注力。今年の部員数は106名と府下の公立高校最多だが、毎日数人ペー

スでも、必ず全員に個別指導をするよう心がけている。「バッティングにも個性がある。時間はかかるが個々の長所と短所、理解力に合わせた指導をすることで、結果として人は伸びる」との声に実感がこもる。

人としての成長にも 厳しく指導

野球よりも厳しく指導するのが、礼儀や言葉遣い、人間としての在り方だそう。「部員たちは私のことを少し怖いと思っているかもしれない」と自らを評す監督。「野球部ではよく『学校にいい風を吹かそう』と言っていますが、自分たちが学校の顔になるという意識の高い生徒が、今年の3年生には揃っていた。学校行事やクラスでも中心的な役

割をかって出る生徒が多い。野球だけではなく人間として成長し、野球部で学んだことを社会で活かせる人になってほしい。戦績の向上には人間的な成長も少なからず関連性があるようだ。

監督は「開会式の独特な雰囲気が好きで、甲子園球場には何度も足を運んでいます。しかし、試合をスタンドから観たことはまだありません」と話す。自分が監督として出場するまで、甲子園での試合は、観る側ではなく出場する側でと決めているという。近い将来、同校が甲子園の土を踏む日が来るだろうと感じた。取材・文:加賀谷範子



今後の目標は?の問いに、監督は、「あれに尽きますね」とグラウンドに掲げられたプレートを指した。バッティングブースや得点板などの装備は、保護者有志による手作り。保護者たちの協力にも支えられている。

摂津市 郷土愛を育むために 校区別の摂津図鑑を作成

摂津市は、子どもたちが自分たちの地域に関心を持ち、郷土愛を育めるようにと、児童向けの市の紹介冊子「みんなの摂津図鑑-校区別-」を作成し、市立小学校の6年生全員(709人)に配付した。冊子はA4判カラー刷り16ページで、各校区のものを1冊にまとめた。子ども目線の冊子となるよう、作成にあたっては現6年生を対象に「校区の自慢」についてアンケートを実施。その結果をもとに、小学生がよく遊ぶ小さな公園や地元の神社などを掲載している。また、同市出身のプロサッカー選手・本田圭佑さんが「50周年記念市勢要覧」に続



各ページには、市のキャラクター「セッピー」や地元商店会のキャラクターなど、ゆるキャラ5体が登場して地域の特徴を紹介することで、子どもたちが親しみやすい冊子となった。

いて無償で協力し、巻頭ページ「世界で輝くじまんのせんばい」として登場している。担当者は「自慢探し」は子どもたちの自信にもつながる。自分の校区の素晴らしさを見直すことで地元をもっと好きになると同時に、他校区の魅力を知ることによって摂津市全体を愛する気持ちを育てて欲しい」と話す。また、子どもたちが、自分たちの住む町を他市の小学生に紹介するときに、この冊子を役立ててほしい、と摂津市の良さが広がっていくことに期待を寄せている。



本田選手が登場する巻頭ページの一部。卒業文集や摂津市への思いなどとともに掲載されている。

茨木市 JR新駅名 決定 「JR総持寺」駅

茨木市庄一丁目(JR京都線摂津富田・茨木間)に平成30年春、開業予定の新駅の駅名が「JR総持寺」駅に決まった。茨木市は、今年1月から2月にかけて駅名を公募し、応募総数1,213件のうち54件で2位だった駅名にJR西日本が最終決定をした。西国三十三所第22番札所としても知名



8月末現在、駅工事の様子。

度があり、場所がイメージしやすく、分かりやすい名称であることを選定理由としている。また、近隣にある阪急総持寺駅と区別するために「JR」を付与する。1位は60件の応募があった「安威川」だが、キーワードで見ると「総持寺」の地名を付けたものが全体の約35%と最多だった。

茨木市 ご当地カクテルが決定 主婦考案のレシピで販売開始

茨木商工会議所は、市の活性化を目的として、地元でしか飲めないご当地カクテルを普及させる「茨木カクテル2017」を立ち上げた。5~6月に同市や高槻市など三島地域の市民を対象にカクテルのレシピを募集。プロを含む34件の応募があり、書類審査の結果、主婦が考案したレシピ「Red Rerila Miyama(レ



ド ベリーラ ミヤマ)」が優秀賞を獲得した。天然赤紫蘇100%使用の見山赤紫蘇サイダーとバカルデイスベリオール(ホワイト)の2種類のみで作られ、さっぱりとして飲みやすい口当たり。8月から市内の飲食店で提供を開始した。取り扱う飲食店は随時募集しており現在は8店舗となっている。詳しくは、茨木商工会議所まで。

薬物乱用の実態 ~薬物事犯の現状~

協力:大阪府警察

区分/年別	平成24年		平成25年		平成26年		平成27年		平成28年	
	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	
覚醒剤	1,693	1,553	1,598	1,350	1,467					
大麻	124	121	146	150	159					
麻薬	16	37	26	24	42					
ヘロイン	0	2	2	0	0					
コカイン	2	1	6	3	5					
その他	14	34	18	21	37					
あへん	3	2	3	0	0					
合計	1,836	1,713	1,773	1,524	1,668					

注:1「国際的な協力の下に規制薬物に係る不正行為を助長する行為等の防止を図るための麻薬及び向精神薬取締法等の特例等に関する法律」違反を含む。
注:2麻薬欄の「その他」の薬物には、LSD、MDMA、向精神薬を含む

平成28年中における薬物事犯は

- 全薬物事犯検挙人員の覚醒剤事犯の検挙人員の割合は約88%
- 覚醒剤事犯の暴力団関係者の検挙人員の割合は検挙人員の約49%
- 大麻事犯は、検挙人員の約64%が20歳代までの若年層

などとなっており、増加傾向にあるだけでなく、若年層への違法薬物の広がりが危惧されている。

覚醒剤や麻薬等の薬物は、一度でも使用すると元に戻らなくなる。「疲れが取れる」「元気になる」「ダイエットに効果的」「たった一度なら大丈夫」「いつでもやめられる」という好奇心で絶対に使用してはならない。

- 知人が最近おかしい言動をするようになった
 - 娘がダイエットと言って、何か薬を使用している
 - 家族の腕に注射の痕がたくさんあるが、どうしたらよいのか判らない
 - 覚せい剤等を乱用するとどうなるのか
- 等、気軽にご相談・ご質問を。



大阪府警
覚せい剤110番(24時間体制で開設)
苦しみに 泣く粉
TEL:06-6943-7957